

## 重慶市酉陽県の土家族の陽戯（儼戯）について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学経営学部人文科学研究室 公開日: 2016-08-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 福満, 正博, 周, 津菁 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10291/17998">http://hdl.handle.net/10291/17998</a>

## 重慶市酉陽県の 土家族の陽戯（儺戯）について

福満 正博 周 津菁

### 一. はじめに

中国の演劇を研究するのに、少数民族の演劇を取り上げるのは、理由がある。儺の儀礼や仮面戯である儺戯の研究方法与、漢字音の研究方法是類似しているように思われるのである。例えば漢字音の中で、-p, -t, -kなどの内破音韻尾を「入声」と呼ぶ。「入声」は、中古時代までであった漢字の「四声」の一つである。しかし、「入声」は中国北方官話地域では近世までに消失してしまい、今の標準語の「漢語」では使われることはない。「入声」の発音を今でも残しているのは、広東語・福建語・上海語などの方言区域や、日本・韓国・ベトナムなどの周辺国である。但し「入声」は、北方官話地域以外ではみな同じ音なのかということ、そうではない。日本漢字音などでは漢字音全体として、古い中古音の音系を残す「呉音」と、その後の唐代音を伝える「漢音」との二層の漢字音を、現在に至るまで忠実にわざわざ区別して残している。また、韓国やベトナムの漢字音も、日本の漢字音とは異なる。これは、それぞれの国が受け入れた時代の漢字音が異なるし、またそれぞれの地域の持つ言語の固有の特徴の干渉を受けるからである。同じものを見ても、人によってそれぞれ感じ方は微妙に異なるのと同じである。また、そもそも漢字自体もゆっくりと変化していつているのである。現在の中原などの北方官話地域に「入声」を探してもその痕跡を探すことはできるが、「入声」そのものは存在しない。だからといって、本来漢字に「入声」が無かったとは到底言えないのである。「入声」などの中古音以前の古い漢字音を研究するためには、逆に周辺地域をこそ調査しなければならないのである。北方官話地域をいくら調べても、過去の中国語の歴史を知ることが出来ないのである。

儺の儀礼や儺戯の研究も、これと類似している。北京や上海の大都市のどこを調査しても、儺礼や儺戯は存在していない（痕跡は窺うことができるが）。だからといって、昔の中国に儺礼や儺戯が存在しなかったというわけではないのである。漢族の古い文化を調査するためには漢族の住む中心地域以外の、周辺地帯・辺境地域や少数民族の住む地帯に踏み分けて行かなければ

ればならないのである。

本稿で取り上げる土家族も、中国に住む漢族以外の少数民族である。漢族の住む中心域では仮面戲を見ることはほとんどできないのに、周辺国である日本が仮面戲である能楽を残しているのと同じように、少数民族の土家族が仮面戲を持つのである。ただし、それぞれの民族の条件が異なるから、同じ仮面戲といっても土家族の仮面戲と、日本の能とは似た所と異なる所の二つがある。本稿は、昨年 2011 年に重慶市酉陽土家族苗族自治州で開催された儺戲国際学会で、私が見た儺戲に関する報告である。

とはいえ、中国の少数民族の研究そのものは、私の能力の範囲を相当に超えている。そうではあるが、今回敢えて取り上げたのは、土家族との出会いが初めてではないことを、帰国後思い出したからである。実は 1991 年 10 月に湖南省吉首市で開催された儺戲学会に、私が参加したことがあるのである。この時に吉首市で見た儺堂戲については、既に報告を書いた<sup>(1)</sup>。ところがよく考えてみると吉首市は、湖南省の西側にあつて、湘西土家族苗族自治州に属し、今回行った東隣の重慶市の酉陽県とは山を隔てるだけの位置関係にあつたのである。つまり、表面的な行政区分は別にして、実は同じ土家族だったのである。湖南省吉首市でその当時に見たものを示す。



写真①



写真②

重慶市酉陽県の土家族の陽戯（儺戯）について

写真①は、正月に行われる「毛古斯」という当地の祭りである。日本の「なまはげ」の祭りに似ているが、当地の土家族に固有の伝統的な祭りである。これに対して写真②は、「儺堂戯」と呼ばれるものである。明らかに、土家族固有の文化ではなく、漢族の古い文化を伝承している。同じ地域で、二種類の文化が同居しているのである。ともかく、土家族の儺堂戯を見たのは、今回が初めてではなかったのである。

儺戯はその後広西省の師公戯を見たが、以来実は儺戯を見ていない。理由はいろいろある。その中の一つとして、現地の様々な儀礼を全く理解できないことが挙げられる。現地に初めて行って、その活動を見ているだけでは、何が行われているかさっぱり理解できなかった。また音声を通じて現象を正確に理解することは、特に少数民族地帯ではほぼ不可能と思われた。だからといって、少数民族の言語を、改めて習得するのは大変な困難が伴うからである。このように、90年代の初めごろは、私個人にとって儺戯の研究は相当に困難なことであった。

ところが90年代の後半から今世紀にかけて、周辺地域や少数民族地域の儺礼や儺戯の現地の漢字資料が次々に刊行されるようになっていた。資料の発掘が続けられていたのである。今回一部であるが、それらの資料を見ることができて、これまで理解できなかったことが、相当に理解できるようになってきた。もちろん少数民族地帯に限って言えば、これらの漢字資料が必ずしも十全に信頼できるわけではないだろうから、正確に言えばある程度理解することは可能になってきたというべきであろう。ともかく現地の巫師による呪文のような言葉が、何と言っているのか、少しは知ることができるようになったのである。

また、今回久しぶりに仮面戯を重慶市で見た。その一場面を挙げたのが下の写真③である。



写真③



写真④

写真③は、今回の重慶市酉陽県の儺戯の写真である。写真④は、1991年の吉首市の儺戯学会の際に、わざわざ貴州省から訪れた人々の地戯の上演の写真である。重慶市の仮面は、顔に布を巻いてその上に斜め上に向けて仮面を装着している。貴州省の地戯の仮面の装着の仕方も、ずいぶん類似しているように思われた。重慶市と貴州省は、南北に隣接する二つの地域である。両者の間に、何らかの交流があるのではないかと思わせるものがあった。儺戯については、広西省の師公戯・雲南省の関索戯・貴州省の地戯・湖南省の儺堂戯・江蘇省の童子戯・安徽省貴池の儺戯・江西省婺源の儺舞などのように各地にその存在が報告されている。それらはそれぞれに孤立して知られるだけであった。しかし、上の二つの写真は、これらの間の相互関係も存在するのではないかということも予想されて、興味を感じさせることであった。

以上が、本稿で2011年の学会でみた重慶市酉陽県の儺堂戯について、報告する理由である。

## 二. 酉陽県での儺戯の記録

酉陽県の儺堂戯の最も古い記録は、清末同治三（1864）年の『酉陽直隸州総志』である。巻十九「風俗志」から引用する。

案州屬多男巫，其女巫則謂之師娘子。凡咒舞求佑，只用男巫一二人或三四人。病愈還願，謂之陽戲，則多至十餘人，生旦淨丑，袍帽冠服，無所不具。偽飾女旦，亦居然梨園子弟，以色媚人者，蓋巫風轉為淫風，其失禮愈不可問矣。

又州屬巫覡凡五種。

重慶市酉陽県の土家族の陽戯（儺戯）について

一種土官時神巫王法靈（法靈跔背故俗名王跔了），所傳其法，花冠紅裙，夭斜跳舞，謂之仙娘教，有下蠻王下黑神之說。以煤塗面，執杖驅邪，此一種也。

一種出於湖南辰永間，其法衣冠拜禱，近於僧道，謂之下壇教（彼以州属巫為上壇教故対名），以符水治病頗著靈驗。此又一種也。

一種出於川西，言劉蜀後主時所傳其法，生旦淨丑，插科打諢，謂之上川教，代人還願，歌舞求神，此又一種也。

一種以木為架，圍布三面，供男女儺神於上，肩負而行，沿門治病，謂之剗乾龍船，此又一種也。

一種則女巫所謂師娘子者而已，至還願皆曰跳神，亦曰降神降（誦如幹）。……………

酉陽県には五種類の巫覡がいたなどと書かれている。中でも第四番目には「以木為架，圍布三面，供男女儺神於上（木で枠組みを作り，三面を覆って，男女の儺神の神体を上に飾り）」というの、明らかに儺堂戯の神壇と同じである。それよりも前半部分には「陽戯」・「梨園子弟」・「巫風轉為淫風」などと言っている。これは明らかに、演劇が上演されていたことを示している。清末には、儺堂戯が行われていたことを示している。

現代の酉陽県の土家族の儺堂戯について詳細な調査結果を示しているのは、段明（1993）である。段明（1993）には、1993年2月7日から9日の3日間で行われた陽戯（「跳戯」）について、詳細な記録が残されている。これによれば、次の7段落の順番で執り行われるとしている。

第一段落…「請神」

第二段落…「関爺鎮殿」

第三段落…「龐氏夫人鎮殿」

第四段落…「正戯」

第五段落…「送神」

第六段落…「関爺掃殿」

第七段落…「掌壇老師投蛋」

これらについては、第三章に詳細に引用して述べるので、ここでは省略する。

また今回学会で上演された陽戯について、重慶市文化芸術研究院の周津菁研究員に、いろいろ教示を受けた。同女史によれば、2010年5月14日から16日の3日間で行われた陽戯について、教示してもらえた。これは、酉陽県宜居郷の冉文貴という人の家で行なわれた結婚儀礼にあたるそうである。以下の次弟表は、それを忠実に訳したものである。

時 間	主要劇目	内 容	演出場所
2010年5月14日 午後7時から12時	請神	神台に諸神が降臨することを祈願し、酒を供え、占いをし、願掛けの由来を述べる。	内壇庁堂
	《関爺開台》	関羽神が降臨し、関羽の功績を歌い、演武を行う。	
	《龐氏夫人鎮台》	龐氏夫人と夫の姜郎相公が、夫婦の家庭の瑣事を取り上げ、孝行と礼節の大事さを歌う。姜郎相公は、主催の人の為に願掛けをする。	内壇庁堂
	《玉清唱書》	父親の張玉清が登場。	外壇戲台
	《南海求子》	南海観音に子供が授かることを願掛けする。	
	《高中状元》	2人の妻が懐妊し、張玉清も科挙に合格する。	
2010年5月15日 正午から午前0時	《被困敵国》	張玉清は騙されて、敵国に出征し、捕らえられてしまう。	外壇戲台
	《上京尋父》	子供の世太と世平が成長し、父を捜しに上京する。	
	《掲榜出征》	世太と世平は、認められて、敵国に出征する。	
	《元帥祭旗》	世太と世平は、軍規を厳格にして進軍する。	
	《招親》	敵国の独旗公主と羅羅公主は二人を捉え、結婚を迫る。	
	《大団円》	世太と世平は、独旗公主と羅羅公主の二人とそれぞれに結婚し、父の父親の張玉清を救い出す。敵国の独旗国と羅羅国は、大唐国に降伏・帰順する。	
2010年5月16日 午前8時から10時	送神	酒を奉げ、占いをし、諸神の帰還を見送る。	内壇庁堂
	《関爺掃台》	関羽神が、建物内の邪悪の気を払い、金運と幸福を呼び込む。	内壇庁堂
	投蛋	卵を割って、願掛けを終わる。	冉家の近くの急な坂

以上が酉陽県の陽戯について調べ得た記録である。

### 三. 2011年の上演の記録

2011年11月15日と16日の二日間で、酉陽県鐘多鎮の大西洞という観光地点の中に設置された簡単な戲台で一連の儀式と演劇の上演が行われた。以下の表が、当日の進行表である。

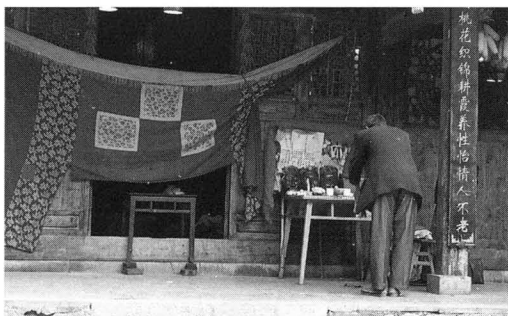
重慶市酉陽県の土家族の陽戯（雛戯）について

2011年11月15日午後	第一場	請神	主壇：陳永霞
		関爺鎮殿	関爺：陳永霞
		龐氏夫人鎮台	龐氏夫人：冷定祥 姜郎相公：楊秀情
	第二場，正戯	三下南唐《活捉余洪》	劉秀英：冷定祥 高俊保：樊兵權
2011年11月16日午後	第三場，正戯	双孝記《招親》	張世太：黄秀林 張世平：黄仕飛 独旗公主：黄秀長 羅羅公主：黄国華
	第四場	送神	主壇：黄光堯
		関爺掃殿	関爺：黄秀林
		掌壇師投蛋	主壇：黄光堯

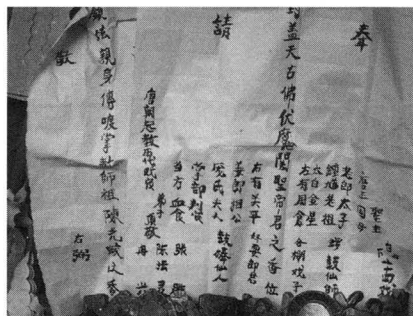
進行は2010年5月14日から16日にかけて行われた儀式とほぼ同じであった。3日間で行われたものを2日間で行ったのであるから、相当に簡略化されたものであった。2010年の場合では、5月15日に外壇戯台で、「双孝記」の《玉清唱書》《南海求子》《高中状元》《被困敵国》《上京尋父》《揭榜出征》《元帥祭旗》《招親》《大団円》の9場面が上演されたようである。2011年の今回の場合では、「三下南唐」と「双孝記」の二つの戯曲が上演された。但し今回は、「三下南唐」は《活捉余洪》の一場面、「双孝記」は《招親》の一場面が上演されただけであった。これらは僻遠の地方の劇目であるから、もちろん通常のどの戯曲辞典にも内容が記載されていない。したがって、始めてみるものであった。ただ「双孝記」は、いろいろな意味で興味深いものであった。わずかであるが資料も手に入れることができたので、後ろで少し詳しく紹介したい。

次に、当日の進行について、記録した写真などを中心に、説明してみる。

1. 請 神

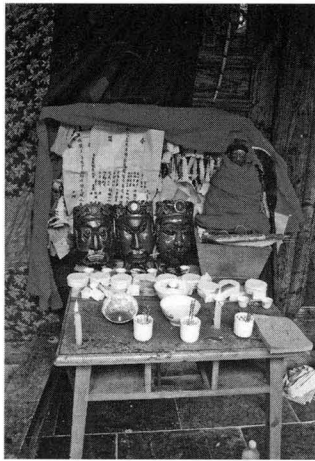


写真⑤

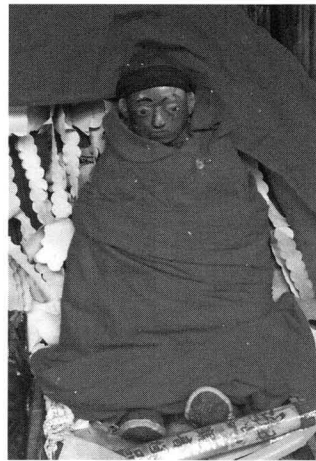


写真⑥





写真⑦



写真⑧

写真⑤に見るように戯台の右側に神壇が設置された。神壇の上には、神の名前を書いた神位牌（写真⑥）と、仮面が三つあった（写真⑦）。右側には戯神の少年の神像があった（写真⑧）。神位牌を、左右に書かれているものを上下方向に並べ替えて書いてみると次のようになる。

奉

上

白 二十四戯

下

聖主

唐王国母

老郎太子

鍾馗老祖

太白金星

左有周倉

蓋天古佛伏魔関聖帝君之香位

右有関平

姜郎相公

龐氏夫人

掌部判官

当方血食

鑼鼓仙師

合棚戯子

好耍郎君

鼓棒仙人

重慶市酉陽県の土家族の陽戯（傩戯）について

唐朝起教歴代戯官 弟子 張勝  
頂敬 陳法靈  
冉興

三体の仮面の中央は関羽であるが、左右については、関平と周倉なのかどうかは不明。右側の少年神像は、劉備の子供「阿斗」（劉禪）だと聞いた。由来については、分からない。

儀礼としては、巫師が神壇に向かって神の降臨を祈願するものである。この場合は、関羽神の降臨を祈願するものとなる。段明（1993）に、1993年に行なわれた陽戯の壇の文を採録している。その一部を紹介する。

〔打一堂鑼鼓〕

〔掌壇老師身著青色或藍色長褂子，面對神位跪於草墊上，雙手拿卦〕

白馬堂上，唐朝啓教，千千師祖，万万師爺。三壇兩教，兩壇三教，合堂合会師祖。

請賜封蓋天古佛伏魔関聖帝君，左站関平，右立周倉，姜郎相公，龐氏夫人，合棚戯子，了願仙官，風火殿内，老郎太子。

〔向神行礼進香〕

一迎一請。猶恐前請不明，後請不到，後学小師再来，二上明香。

〔向神行礼進香〕

二迎二請。奉請何神，奉請何祖。奉請弟子随行，三師教祖入口，傳度師傅。奉請蓋天古佛伏魔関聖帝君，左站関平，右立周倉，姜郎相公，龐氏夫人，合棚戯子，了願仙官，風火殿内，老郎太子。……………

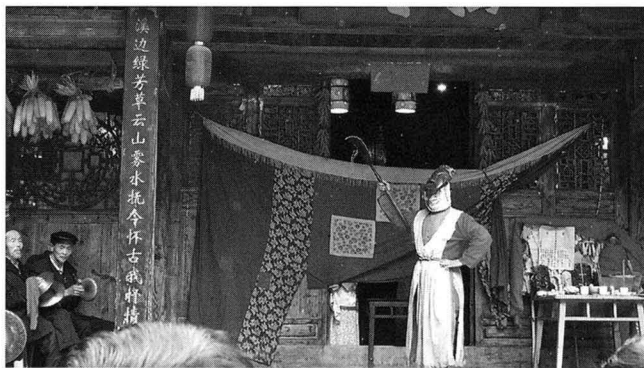
このように一人の巫師が奏文を読み上げて、関羽神などの諸神の降臨を願い、迎神を行っているのである。奏文の後半では、祭礼の主人の名前を挙げて、祭礼が行われる理由を示し、その困難を解決するために神の助けを冀うことを述べる。毎回の祭礼が執り行われる理由は、祭礼の主人の困境がそれにあたる。毎回主人が異なるわけであるから、今回の場合の奏文は、これとは全く異なったものであったはずである。しかしかなり離れた所から迎神の儀礼を見ただけなので、具体的には何を言っていたのかは分からなかった。

さて、道教的な祭り・儀礼は、通常「醮」と言われる。「醮」の字は、部首が「酉」であるから、本来的に祭りの意味であったと思われる<sup>(2)</sup>。この「醮」の儀式に付随して、演劇が上演されるのである。胡天成（1994，2003）によれば、重慶市の巴県接龍地区の場合であるが、陽戯は大きく「内壇（正壇）」と「外壇」に分かれるという。「内壇」は主に法事・儀式を掌り、「外

壇」は主に劇を上演するらしい。ほかに意味的に少し異なるが、「陰戯」と「陽戯」という区別もあって、これがそもそも「陽戯」と呼ばれる因縁であるとも説明される。王躍（1996）は、「陰戯」は「陽戯」から分化したのではないかとしている。理由として、「陰戯」に仏教儀礼的な要素があることを指摘している。陰戯は死者儀礼を主に取り扱っているのであろう。「陽戯」の中に「内壇」と「外壇」があるのか、そもそも「内壇（正壇）」と「外壇」の区別が「陰戯」と「陽戯」の区別の別名なのか、なかなかはっきりとせず曖昧である。しかし、本来的に道教儀礼そのものが、厳格に定義し区別されるものではないのかもしれない<sup>(3)</sup>。ともかくも、それを執り行う道士も、当然二種類に分かれている。事実重慶市の巴県接龍地区の場合では、内壇班と外壇班という組織にそれぞれ分かれて、活動をしているようだ。

このように道士の中に区別があることは、大淵忍爾（1983）などが報告している二種類の台湾の道士を想起させる。それは「烏頭道士・司公」と「紅頭法師・法官」の二種類である。前者は主に死者儀礼を執り行い、道冠・道服を着用して、靴をはく。後者は駆邪押煞の法術を執り行い、紅布で頭を包み、白裙を腰に纏い、跣足（はだし）である。道教儀礼の中でも、中国ではより厳粛で高級な死者儀礼と、より大衆的で低級なお払いの儀礼に分かれている。後者は、原初的なシャーマンとも言えるだろう。この「紅頭法師」が次の場面に出てくるのである。

## 2. 関爺鎮殿



写真⑨

奏文を読み上げていた巫師が、着替えを初めて赤い服を着、仮面を被って関羽神になり、舞を始める（写真⑨）。関羽神の歌も、段明（1993）に録されているので、その一部を書いて見る。

三炷信香挿炉中，神在虚空顯神通。

三炷信香挿炉台，神從虚空下凡来。

三炷信香挿炉中，炉中現出九条龍。

.....

関翁生得志気高，手持青銅柳葉刀。

関翁生得熊又熊，未曾喫酒臉鮮紅。

.....

説要来，我就来，才在桃園洞中来。

桃園洞中三結義，三人結義在桃園。

.....

説要来，我就来，不怕老虎不怕豺。

不怕老虎当堂坐，只怕事主門不開。

.....

この歌で興味深いのは、内容が客観的な情景描写から、巫師に霊が乗り移って憑依する様がよく表わされていることである。最初が「三炷信香挿炉中，神在虚空顯神通（三本の線香が炉に挿されると，神は空から神通力を現すだろう）」というように，神壇で祈願する巫師のことを客観的に歌っている。次に「関翁生得志気高，手持青銅柳葉刀（関羽神は生れ付き志が高く，手には青銅柳葉刀を持つ）」というように，関羽神の話に移る。そのうち「説要来，我就来，才在桃園洞中来（誰でも私の名を呼べば，私はすぐに現れる。桃園洞窟から来るであろう）」と歌い，主語が一人称の「我」になって来ることである。巫師が歌いながら，関羽神に憑依していく様を，明確に示している。

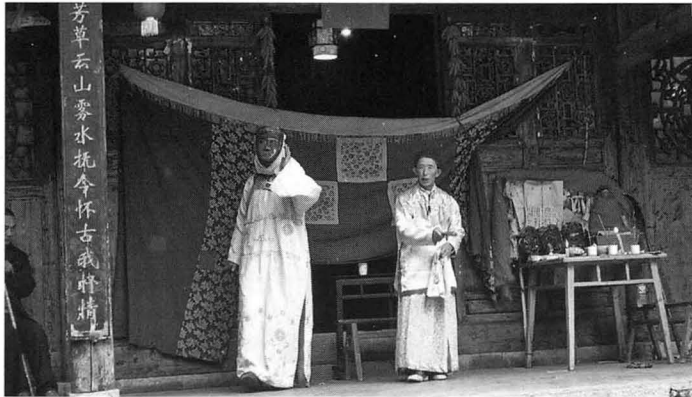
このような現象に対して，早くに田仲一成（1993）は，次のように指摘している。

ところで近年，右の紅頭巫術のさらに古い形とみられる「驅邪逐疫」の法術が，所謂「儺礼」の名の下に，中国各地に伝承されていたことが報告され始めた。古代の巫師によって担われていた儺礼の古い形が，露出してきたのである。

まず，この広東，福建の紅頭巫師にもっともよく類似している儀礼として，湖南省西部（湘西）と貴州省東部・東北部の苗族，土家族，侗族に伝承されている“儺堂戯”を挙げることができる。湖南省鳳凰県の苗族儺堂戯，貴州省銅仁県侗族，同岑鞏県侗族の儺堂戯，及び同徳江県土家族の儺堂戯などを見たところでは，巫師は壇を作って神を祭り，その前で紅布を纏頭し，草褶風の法裙をつけて，師刀・角笛をもち五方の陰兵を招いて鬼邪を逐う。また紙船・茅船により瘟疫を送りだす儀礼も行う。……これらの姿態，所作，儀礼の発想のすべてにおいて，紅頭法師の流儀をふんでいることは明らかである。

古代中国であったはずの巫師の姿が、周辺の少数民族の巫師たちに残存しているというのである。今回みた重慶市の酉陽県の陽戯の巫師もまたこの古い巫師の姿を伝承していると言えるだろう。

### 3. 龐氏夫人鎮殿



写真⑩

写真⑩は龐氏夫人と姜郎相公の二人による掛合いの場面である。左が姜郎相公で、右が龐氏夫人。姜郎相公は、仮面をかぶっているが、龐氏夫人は彩臉だけで仮面はない。段明（1993）によって、その一部を見てみる。

龐氏夫人…（唱）

奴家長到二八歲，把奴家到姜家門。  
要知我的名和姓，龐氏三冲我的名。  
奴的丈夫有名字，姜郎相公奴夫君。  
奴家過門三年後，生下一子七八春。  
夫妻與兒取名字，安安就是小兒名。

.....

姜郎相公…（唱）

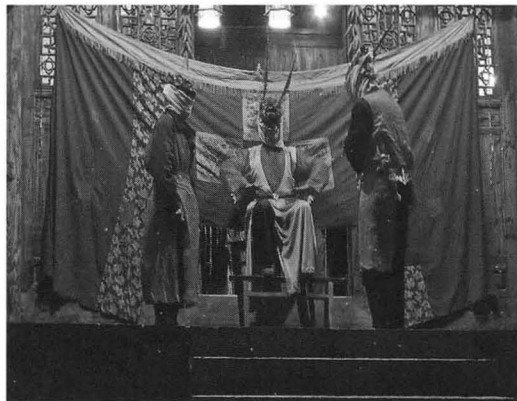
轉面又把賢妻問，你聽為夫問一声。  
昨日安安学堂去，說我母親面帶愁。  
敢莫賢妻得罪母，得罪娘親罪不輕。

.....

#### 重慶市酉陽県の土家族の陽戯（儺戯）について

陽戯は宗教的な法事を執り行う内壇と言う儀式と、戯曲を上演する外壇の二つに分けられた。内壇という儀式の中で、「関爺鎮殿」と並んで、「鎮宅」という儀礼として執り行われているようである。しかし、これは夫が姜氏、妻が龐氏、子供が安安という名前だから、演劇の劇目である。また後半は、龐氏夫人と姑の間の問題を暗示している。ここから考えて、これは本来「姜詩躍鯉記」（『古本戯曲叢刊初集』所収）という明代の戯曲である。興味深いことに、湖南省の西側である湘西の土家族の儺堂戯で上演されている「龐氏女」（湖南省戯曲研究所1982）と基本的に同じ作品と思われる。またこれは、重慶市酉陽県の南西隣り貴州省徳江県の儺堂戯で上演されている「安安送米」（《徳江儺堂戯》資料採編組1993）とも同根である。また徳江県の南隣りの貴州省思南県の儺堂戯で上演されている「三孝記」（思南県民族事務委員会1993）とも同根である。湖南省の西側の湘西地域には湘西土家族苗族自治州があり、重慶市の南には石柱土家族自治県・彭水苗族土家族自治県・酉陽土家族苗族自治州・秀山土家族苗族自治州があり貴州省の北側には印江土家族苗族自治州などがある。この地域は行政区画として三省に分割されているが、ほとんど土家族の住む地域である。同じ土家族の文化であるから当然関係を有しているのであろう。陽戯に限ってみても湖南省の文化と貴州省の文化をつなぐ鍵として、重慶市の文化が存在していることを、酉陽県の土家族の陽戯は示しているように思われる。事実『土家族簡史』（湖南人民出版社、1986年）によれば、この三省が接する地域が土家族の分布地域とされている。

#### 4. 正戯：三下南唐《活捉余洪》



写真⑪

話のあらすじは、以下のようである。

南唐の乱を平定するために、宋の天子は高懐徳に命じて賊軍の余洪を征伐させようとする。しかし一度目は戦いに大敗してしまい、二度目は捉えられてしまう。宋朝は高懐徳の子の高俊保に三度目の余洪の征伐を命じる。途中の乱石山で女性の義賊の劉秀英に会い戦う。二人は三百合ほど切りあって、最後に劉秀英の計略によって高俊保は捉えられてしまう。劉秀英は高俊保と婚約をして、二人で協力して余洪の征伐に向かう。二人は賊軍の余洪の城に向かい攻撃する。捉えられていた高懐徳も、城内から呼応し、賊軍の余洪を破る。

『趙太祖三下南唐被困壽州城』という清末の長編小説があるが、それとは異なる。詳細については、不明である。

## 5. 正戯：双孝記《招親》

話のあらすじは、次のようなものである。

張玉清は科挙の受験生で、王氏夫人と李氏夫人の三人で暮らしていた。長年子供が授からなかったのが、張玉清は南海観音に祈願したところ、やっとそれぞれに子供が授かった。それぞれに張世太と張世平と名付けた。張玉清はその後上京して科挙の試験に合格する。大臣の郭氏は張玉清を見込んで娘婿にしようとするが、拒否される。郭氏はそれを恨んで報復のために、国境をたびたび侵犯する敵国独旗国と羅羅国の二国の平定に張玉清を向かわせた。文人の出身で遠征軍の将軍となった張玉清は、捕らえられて数十年幽囚の身となった。成長した張世太と張世平は、学堂に通った。しかし、父親の名を知らなかったのが「無父野種」と嘲笑された。二人は家に帰って事情を母に話し、上京して連絡のない父を捜すこととした。上京の道の途中で、李哪吒神から神仙の武術を教わる。都につくと皇帝から認められて、独旗国と羅羅国の二国への遠征軍の将軍に任命される。二人は辺境に向かい、独旗公主と羅羅公主に出会う。戦いの途中公主は「捆仙繩」を使って張世太と張世平を捕え結婚を迫る。張世太と張世平は、拒否したので殺害されそうになる。公主の配下に説得されて、朝廷に降伏すること父の張玉清を帰国させることなどを条件として結婚することにする。張世太と張世平は結婚することによって独旗国と羅羅国を降伏させ朝廷への忠義を尽くし、また幽囚されていた父を救い出したことにより孝行を尽くしたことになった。

当日上演された双孝記の《招親》の場面について、比較的詳細に記録することができた。主な粗筋にそって写真と解説を示す。

重慶市西陽県の土家族の陽戯（傩戯）について

- ① 仮面を被った張世太と張世平が二人の配下を引き連れて登場



写真⑫

- ② 独旗公主と羅羅公主が二人の配下を引き連れて登場。



写真⑬

- ③ 独旗公主と羅羅公主たちと張世太と張世平たちが戦う場面。まず配下の者同士から戦う。



写真⑭



- ④ 独旗公主と羅羅公主たちと張世太と張世平たちがそれぞれに戦う。



写真15

- ⑤ 独旗公主と羅羅公主たちが「捆仙繩」を使って、張世太と張世平たちを捉える。



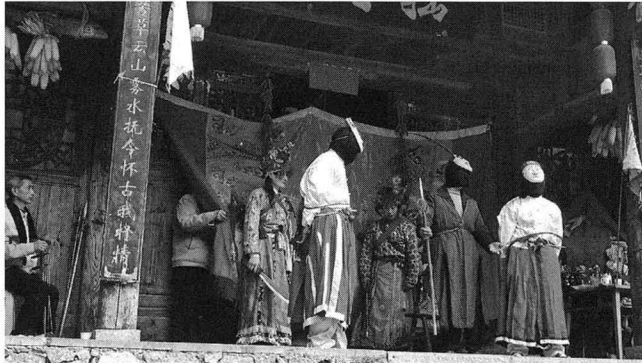
写真16

- ⑥ 結婚の申し出を拒否した張世太と張世平たちを、独旗公主と羅羅公主たちは殺そうとするが配下のものに止められる。



写真17

- ⑦ 配下の者に説得されて、張世太と張世平たちは条件を出して結婚を受け入れる。



写真⑱

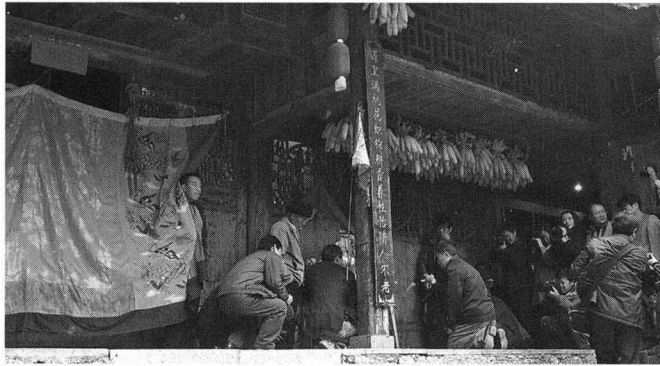
- ⑧ 独旗公主と羅羅公主たちと張世太と張世平たちは、めでたく祝宴をとり行う場面となる。



写真⑲

双孝記の《招親》の内容について詳細に紹介した。以上からも明らかなことは、この劇が外地からやってきた漢族の男性と、地元の土家族と思しき女性との、結婚に至る物語であることである。中でも、女主人公たちが縄をくくりつけて男主人公を捉えるというような、女性の側から強引とも思える求婚が特徴的である。この内容について、二つの解釈が可能のように思われる。一つはこれが当地の土家族の母系制のような風俗を表現していると考えられるものである。もう一つは、中国の古典劇にもしばしばみられる、女性側が男性側に積極的に求婚する物語の焼き直しとするものである。前者の可能性を特に考えて、いくつか土家族の結婚風俗に関する民俗学的研究を調べてみたが、明確な指摘は見つけられなかった。いずれにしろ、外部から移民して入って来る漢族と、現地の土家族との融合という、歴史的な事実を反映しているものと思われる。

## 6. 送 神



写真⑳

巫師が諸神に感謝する奏文を読み上げる（写真⑳）。また段明（1993）によって、その一部を見てみる。

〔投卦。是陽卦就表明尚未歸坐，必須要重請，陰卦，聖卦表明已經歸位正坐。〕

請神正坐。正坐之後，不要推杯，不要推杯，不要推盞。壺中有酒，開壺點座。啊也。

〔掌壇師在神台前〕

下馬三巡，酒斟初巡。

下馬三巡，酒斟二巡。

下馬三巡，酒斟三巡。

三巡杯酒，斟在杯中，坐在堂內。奉勸合堂神眾，歡歡得領，喜喜得亨。

請神領亨之後，名下弟子，具有疏奏，特在神前，謹當宣讀。

……………

謝神推脫得行，蒙神遣壓得去。專推主人坐於此境地，有天火、地火、年火、月火、日火、時火、天火推在天壇，地火推在地府，推出宅鄉，遣行外里。

謝神推脫得行，蒙神遣壓得去。望大神專推主人家下之中，天瘟、地瘟、年瘟、月瘟、日瘟、時瘟、一年四季，十二瘟皇，推出宅鄉，遣行外里。……………

邪気というのは、火事や病気などであったことが分かる。巫師は、諸神によって邪気が払われ災害が遠ざけられたことを感謝し、神に捧げものをするということを歌っている。

7. 関爺掃殿



写真⑳

巫師は、また憑依して関羽神になって歌う（写真㉑）。また段明（1993）によって、その一部をしてみる。

來時與主參香火，回時與主掃五瘟。  
一掃東方甲乙木，諸邪百鬼盡掃除。  
二掃南方丙丁火，掃除妖魔就是我。  
三掃西方庚辛金，引出西方金德星。  
四掃北方壬癸水，掃除邪魔鬼妖精。  
.....

関羽神は、「驅邪逐疫」の自らの功績を誇り歌う。ここでも「掃除妖魔就是我（妖怪を驅除したのは、まさに私である）」と歌い、一人称である。巫師がまだ憑依状態であることを表現している。

## 8. 掌壇師投蛋



写真②

卵を投げるということであるが、実際には投げなかった。紙製の小道具を焼いて、儀式を終わりにするものであった（写真②）。

## 四. 終わりに

呉電雷（2011）は、四川省北部（広元市・剣閣県・梓潼県）などの地域と、貴州省（遵義市・息烽県・福泉市・開陽県）と重慶市（武隆県・涪陵区・江北区・巴県接龍区）などの地域と、湘西（湖南省西部）の三地域の陽戯を比較して、興味深い指摘をしている。それによれば、四川省北部地域は儀式的要素が多く演劇の要素が少ない。湘西地域は、演劇の要素が強くて儀式的要素が弱い。重慶市と貴州省は、その中間であるらしい。とすれば、儼堂戯（陽戯）も、東の湖南省から重慶市を經由して南の貴州省へと流れて行ったのではなかろうか。それぞれの地域で自生したわけではなく、この場合は東の方から西へと、だんだんに影響されていったということを暗示しているようにも思われる。興味深いことに重慶市の酉陽県付近は、地政学的な要所で、ここから湖南省の省都長沙市まで430キロ、貴州省の省都貴陽市まで360キロ、四川省の省都成都市まで340キロである。この三省の省都を結ぶちょうど中間点の様な場所にあるのである。従来湖南省の湘西地域の儼堂戯と、貴州省の地戯や雲南省の関索戯などが重要な儼戯として注目されて来た。しかしそれらの間の交流・影響関係を調べる鍵として、四川省・重慶市の陽戯（儼戯）に、もっと注目してよいように思われるのである。

## 重慶市酉陽県の土家族の陽戲（傩戲）について

最後に、本稿の作成にあたって、重要な現地の情報を提供してくれた重慶市文化芸術研究院の周津菁女史と、その情報提供を許可していただいた段明重慶市文化芸術研究院院長に深く感謝することを記しておきたい。

### 《注》

- (1) 福満正博「中国湖南省傩戲について」『山梨県立短期大学紀要』第25号、1992年
- (2) 傩については、大淵忍爾（1983）、劉枝萬（1983）、田中文雄・丸山宏・浅野春二（2000）、葛兆光（1987）、李養正（1989）などを参照されたい
- (3) 陽戲の名称の由来について学説が紛糾していることについては、陳玉平（2009）を参照されたい

### 参考文献

- 大淵忍爾（1983）.『中国人の宗教儀礼』, 福武書店  
田仲一成（1993）.『中国巫系演劇研究』, 東洋文化研究所  
田中文雄・丸山宏・浅野春二（2000）.『道教の教団と儀礼』, 雄山閣  
謝荔（2001）.「四川の民間信仰と道教」,『アジア諸地域と道教』所収, 雄山閣  
劉枝萬（1983）.『中国道教の祭りと信仰』, 桜楓社
- 陳玉平（2009）.「陽戲研究総述」『貴州民族学院学报』総第115期  
《德江傩堂戲》資料採編組（1993）.『德江傩堂戲』貴州民族出版社  
段明（1993）.『四川省土家族苗族自治州興隆村傩面具陽戲』王秋桂編, 台北・財団法人施合鄭民族文化基金  
段明・胡天成（2006）.『巴渝民族戲劇研究』貴州人民出版社  
広西芸術研究所（1990）.『広西傩芸術論集』文化芸術出版社  
葛兆光（1987）.『道教与中国文化』上海人民出版社  
湖南省戯曲研究所（1982）.『湖南傩堂戲資料彙編』  
湖南省戯曲研究所（1982）.『湖南戯曲伝統劇本, 傩堂戲專集』  
胡天成（1994）.『四川省重慶市巴県接龍区漢族の接龍陽戲—接龍端公戲之一』王秋桂編, 台北・財団法人施合鄭民族文化基金  
胡天成（2003）.『四川省重慶接龍区端公法事科儀彙編』王秋桂編, 新文豊出版社  
皇甫重慶（1995）.『貴州陽戲』王秋桂編, 台北・財団法人施合鄭民族文化基金  
李養正（1989）.『道教概説』, 中華書局  
綿陽市文化局（1991）.『梓潼陽戲』,  
思南県民族事務委員会（1993）.『思南傩堂戲』貴州民族出版社  
土家族簡史編写組（1986）.『土家族簡史』, 湖南人民出版社  
王躍（1997）.『四川省江北県舒家郷龍崗村劉宅の還陽戲』王秋桂編, 台北・財団法人施合鄭民族文化基金  
王兆乾（2007）.『中国傩文化』汕頭大学出版社  
吳電雷（2011）.「西南三種不同形態の陽戲及其变化」中国重慶陽戲（傩戲）国際学術研討会論文